

2025年9月期 第2四半期 決算補足説明資料

ティアンドエスグループ株式会社

(東証グロース 4055)

2025.5.14



T&S

Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリ別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
トピックス	p. 14
業績予想進捗率	p. 18
株主還元	p. 20

(今期のテーマ) 何かが始まる

1 **過去最高収益**を継続。(過去同四半期比) 前2Q比大幅アップ

売上高	: 20億 16百万円 (13.9%増↑ 増加額: 245百万円) (前年同四半期比) ※
営業利益	: 3億 69百万円 (17.7%増↑ 増加額: 55百万円) (同)
経常利益	: 3億 71百万円 (18.1%増↑ 増加額: 56百万円) (同)
四半期純利益	: 2億 42百万円 (11.1%増↑ 増加額: 24百万円) (同)

※ 決算期変更により前年2Qは12月から5月までの実績となっております。

2 AIソリューションが好調を持続。半導体カテゴリーも復調

- ▶ AIソリューションカテゴリーの売上高は236百万円となり、前年同期比66.3%の大幅増。AIや高性能コンピューティング需要の高まりから当社への引合いが大幅に増加した。
- ▶ 半導体ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比15.9%増の605百万円と復調。半導体メーカーの業績回復に伴い、システム開発案件が増加した。
- ▶ DXソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比6.2%増の1,174百万円と堅調。基盤分野であるカテゴリーとして安定的な成長を継続した。

3 エクステージ(株)の連結開始。各子会社では新規開拓の動きも

- ▶ 当2Qより、子会社エクステージ(株)の連結を開始。半導体関連の開発体制を強化。
- ▶ 各子会社では、新規取引先の開拓を強化。複数社との取引がスタート。
- ▶ 子会社イントフォー(株)はAIソリューションビジネスの拡大を目指し(株)カイと業務提携。

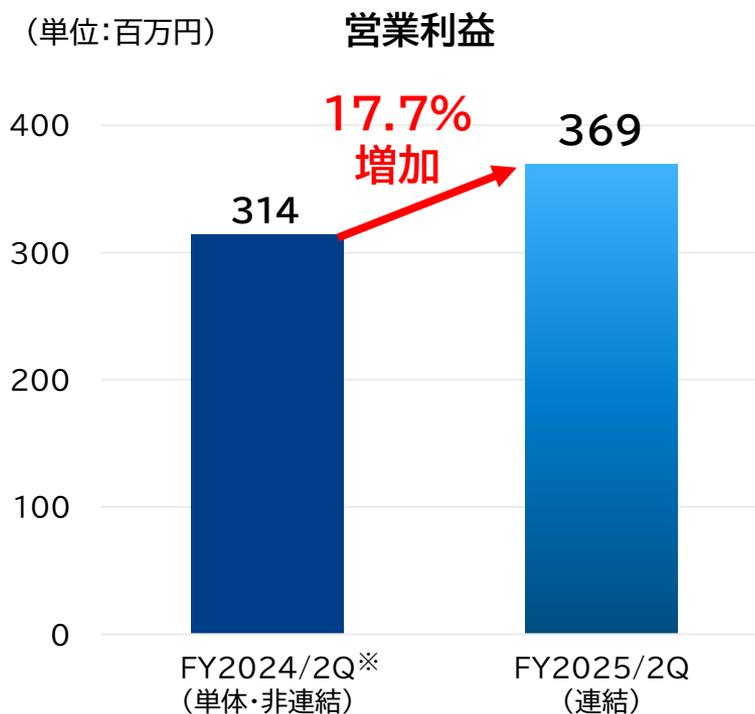
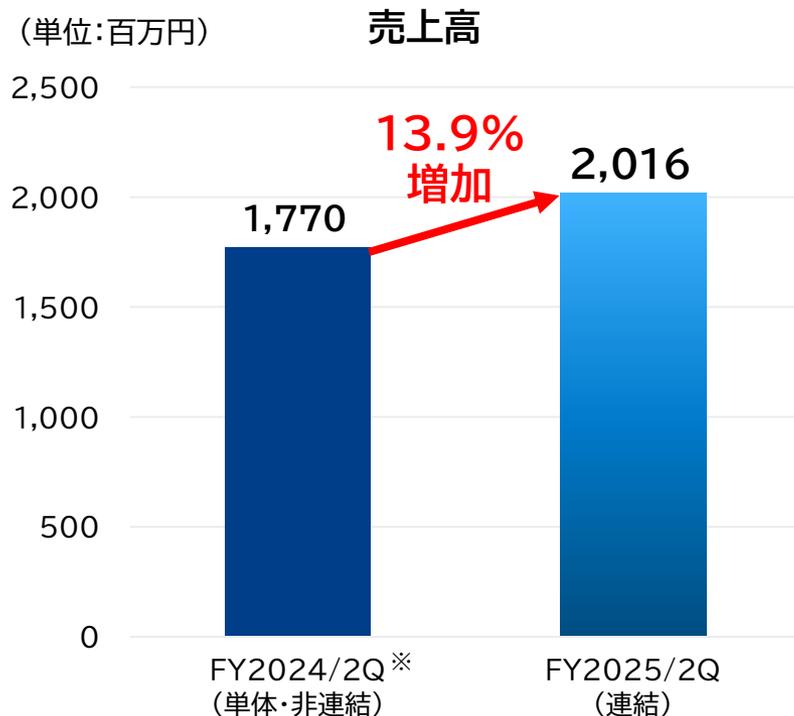
決算概要

2025年9月期 第2四半期

過去最高収益を継続

(過去同四半期比)

売上高	: 20億 16百万円	(13.9%増↑	増加額: 245百万円)	(前年同四半期比) ※
営業利益	: 3億 69百万円	(17.7%増↑	増加額: 55百万円)	(同)
経常利益	: 3億 71百万円	(18.1%増↑	増加額: 56百万円)	(同)
四半期純利益	: 2億 42百万円	(11.1%増↑	増加額: 24百万円)	(同)



※ 決算期変更によりFY2024/2Qは12月から5月までの実績となっております。

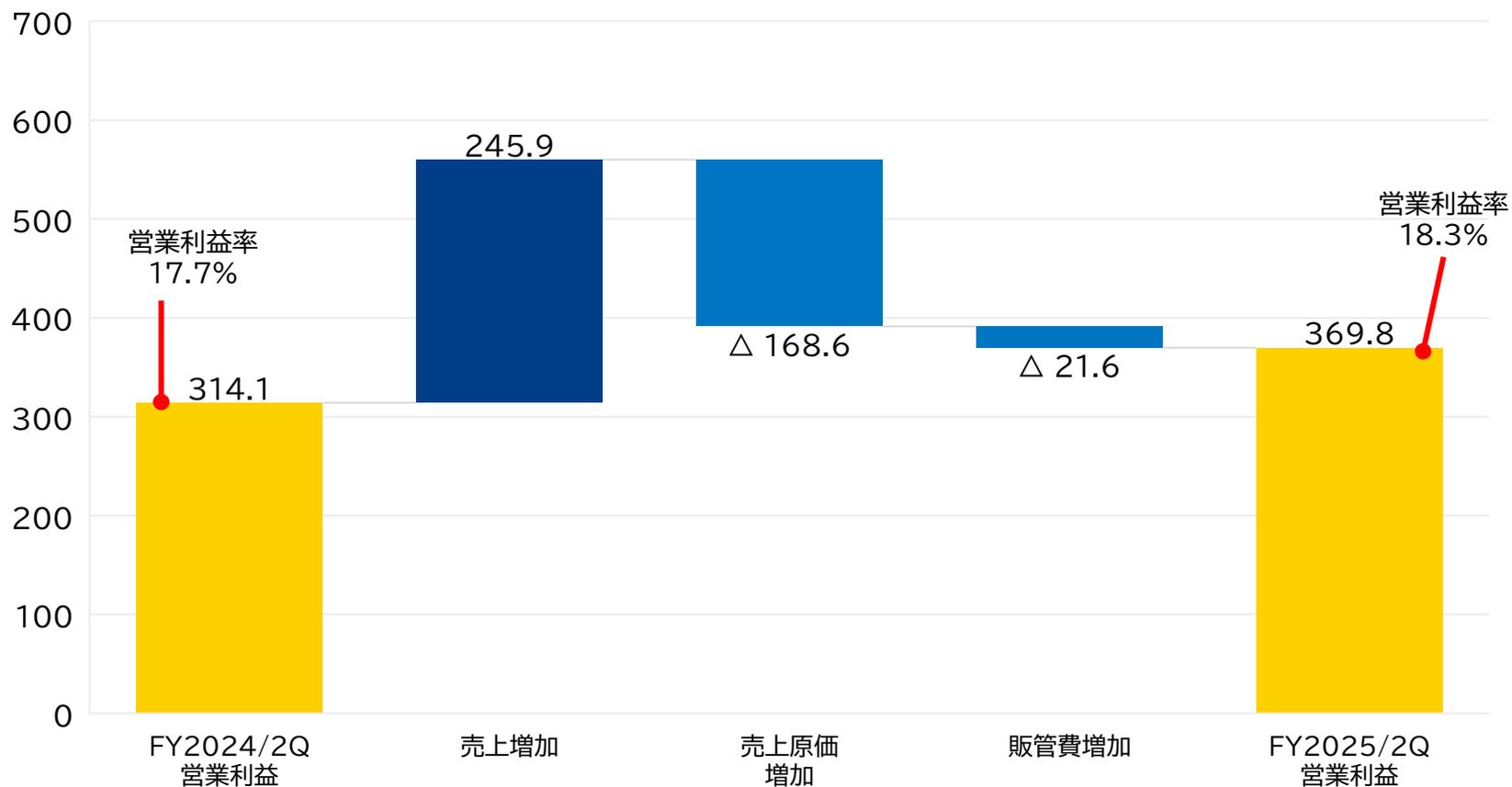
営業利益の状況(FY2025/2Q)

HD化による業績向上効果が販管費増を上回り、
55百万円の営業利益増。

(前年同四半期比)

(単位:百万円)

■ 増加 ■ 減少 ■ 営業利益



カテゴリー別売上高 (FY2025/2Q)

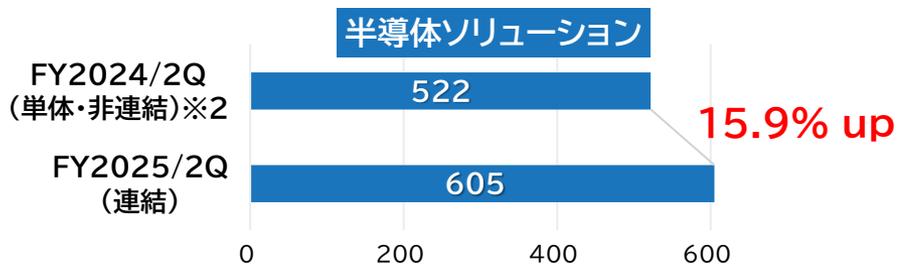
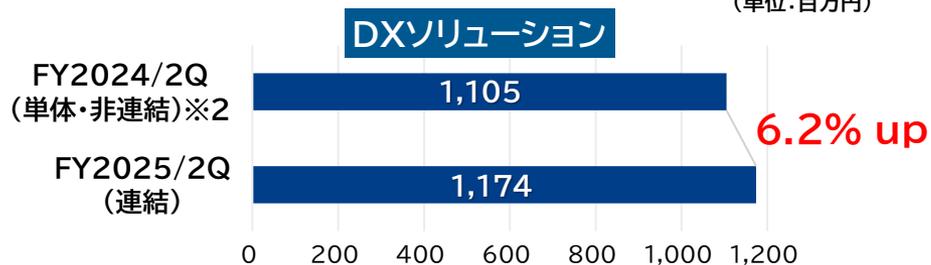
AIソリューションの売上高は**66.3%**の大幅増
(前年同四半期比)

半導体ソリューションは**15.9%**と急回復
(前年同四半期比)

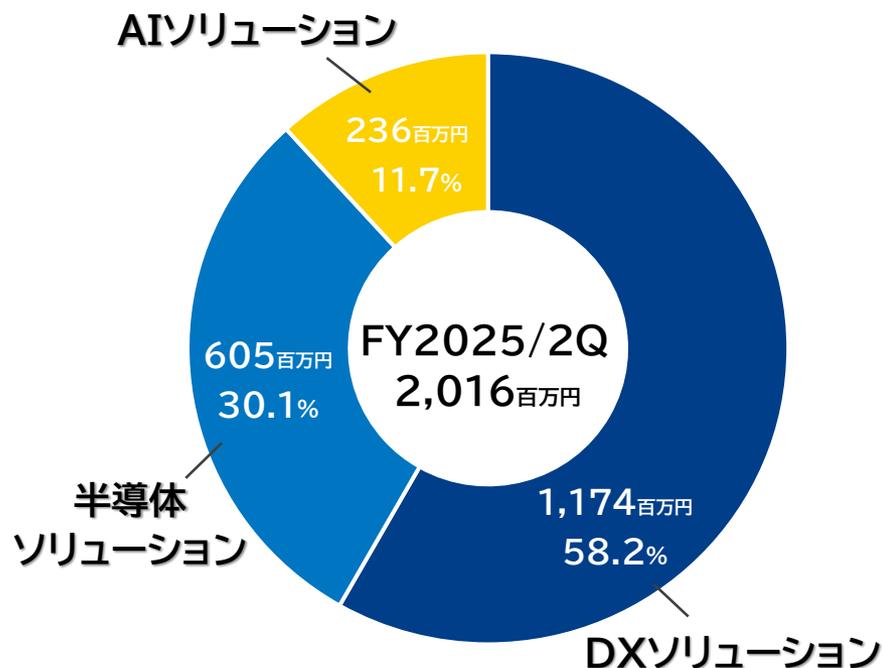
DXソリューションの売上高は**6.2%**と安定成長
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) ※1

(単位:百万円)



売上比率(カテゴリー別) ※1



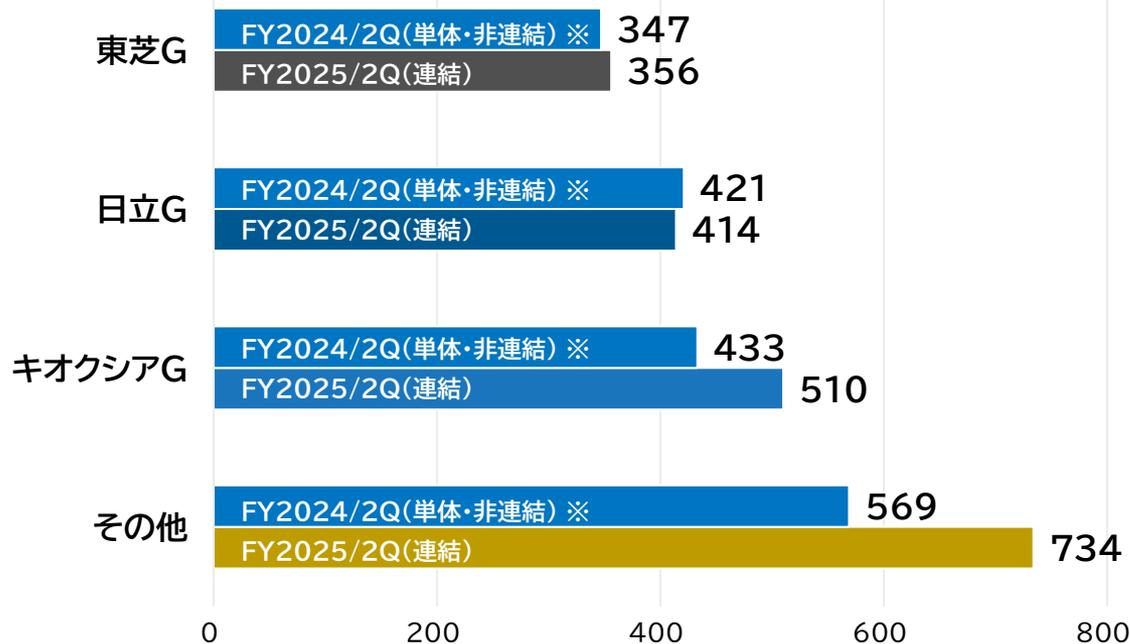
※1 当社グループの事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

※2 2024年9月期 第3四半期より連結決算に移行しております。2024年9月期 第2四半期は非連結の実績を記載しております。

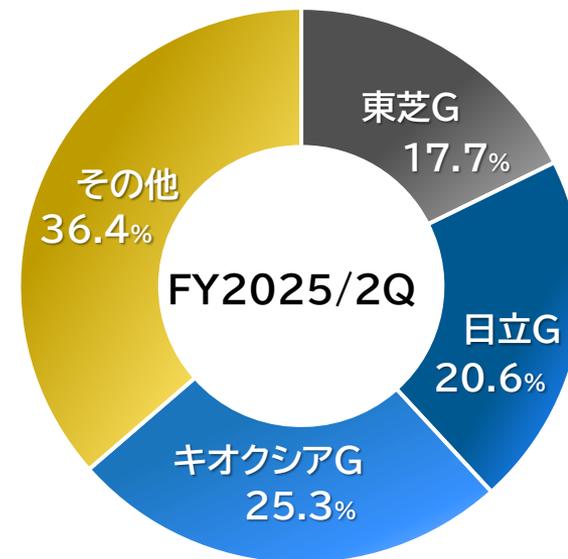
取引先別売上高 (FY2025/2Q)

キオクシアGが急回復
東芝G、日立Gは安定して推移
その他取引先が大幅伸長

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



※ 2024年9月期 第3四半期より連結決算に移行しております。
2024年9月期 第2四半期は非連結の実績を記載しております。

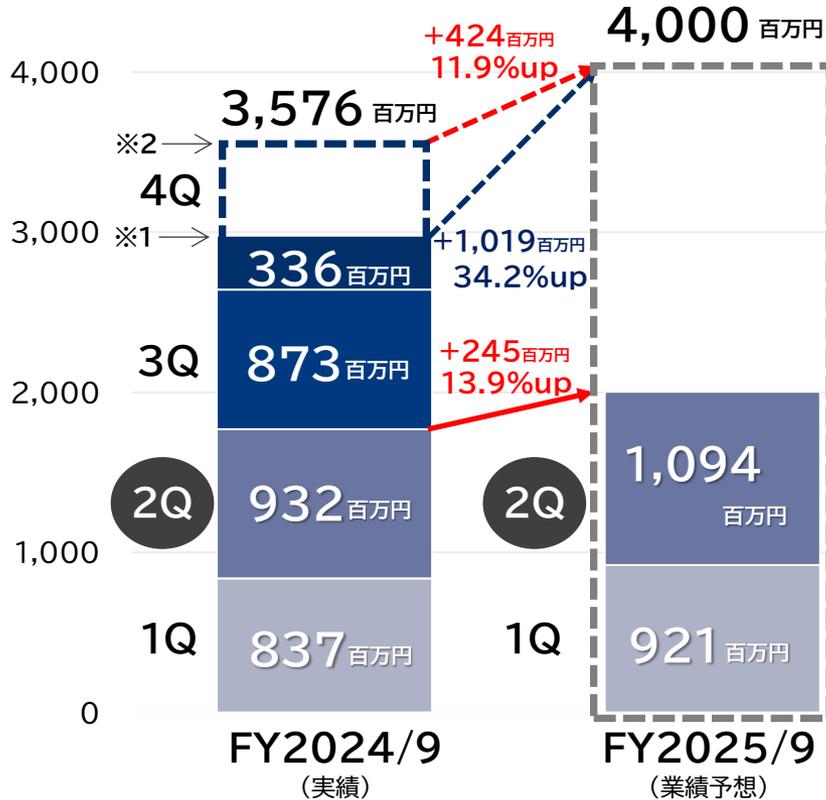
四半期別売上高・営業利益(FY2025/2Q)

2Q累計売上高 : **20億16百万円**
 増加額: **+245百万円 13.9%増加** (前年同四半期比)

2Q累計営業利益 : **3億69百万円**
 増加額: **+55百万円 17.7%増加** (前年同四半期比)

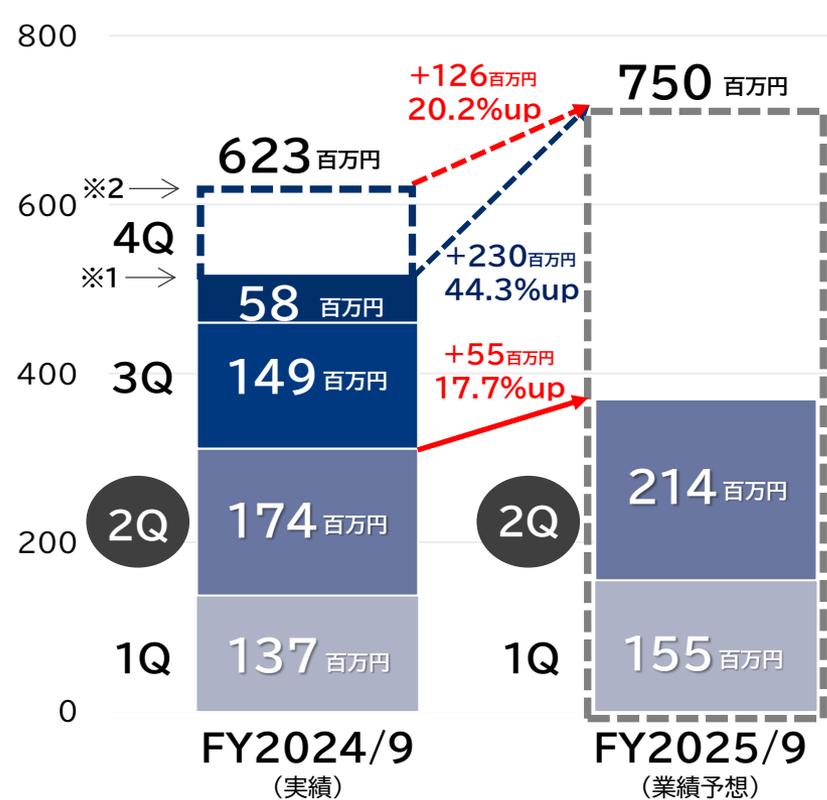
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

営業利益



※1 決算期変更に伴うFY2024(10ヶ月変則決算)実績との単純比較であります。

※2 12ヵ月換算の参考値としてFY2024通期実績に12/10を乗じて算出した値との比較であります。

(全体)主要取引先動向

昨年までの半導体市況の低迷を脱し、好調に向かっています。一部に足踏みが残るものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、国内経済は緩やかに回復し、AI、高性能コンピューティングの需要や労働力不足などを見据えた省力化に対応するためのソフトウェア投資需要は拡大傾向にあります。このように、当社グループを取り巻く事業環境は安定して推移する見込みです。一方、当社グループへの直接的な影響はないものの、米国大統領の政策による影響は引き続き不確定要素であり、関税引き上げ、米中の貿易摩擦の再燃等、地政学リスクの高まりには十分注意が必要です。

東芝G

非上場化後のリストラクチャリングの影響により減収となったものの、HDDや発電システムなどが好調であり、業績は順調に推移しています。経営改革の成果も着実に業績へ反映されており、当社グループへの引き合いも順調に回復傾向です。

日立G

ITサービスを担う「デジタルシステム&サービス」セグメントにおいては、クラウドやセキュリティ関連等のLumada事業が好調に推移しています。国内IT市場においてはDX/モダナイゼーションの追い風を受け、増収、増益は今後も継続する見通しであり、当社グループへの引き合いも増加が期待されます。

キオクシアG

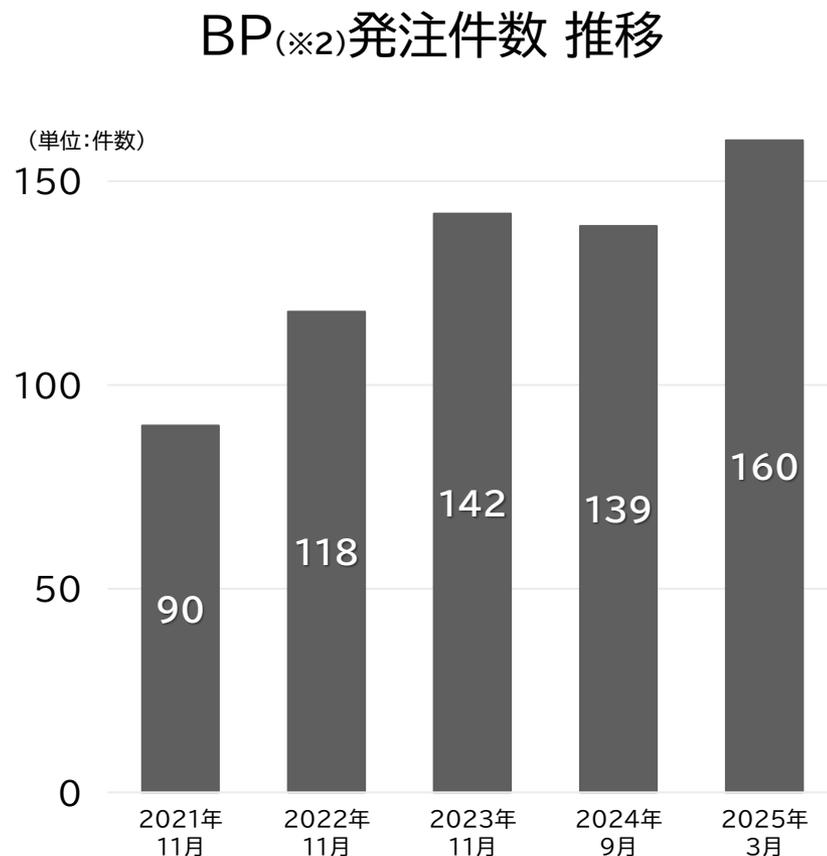
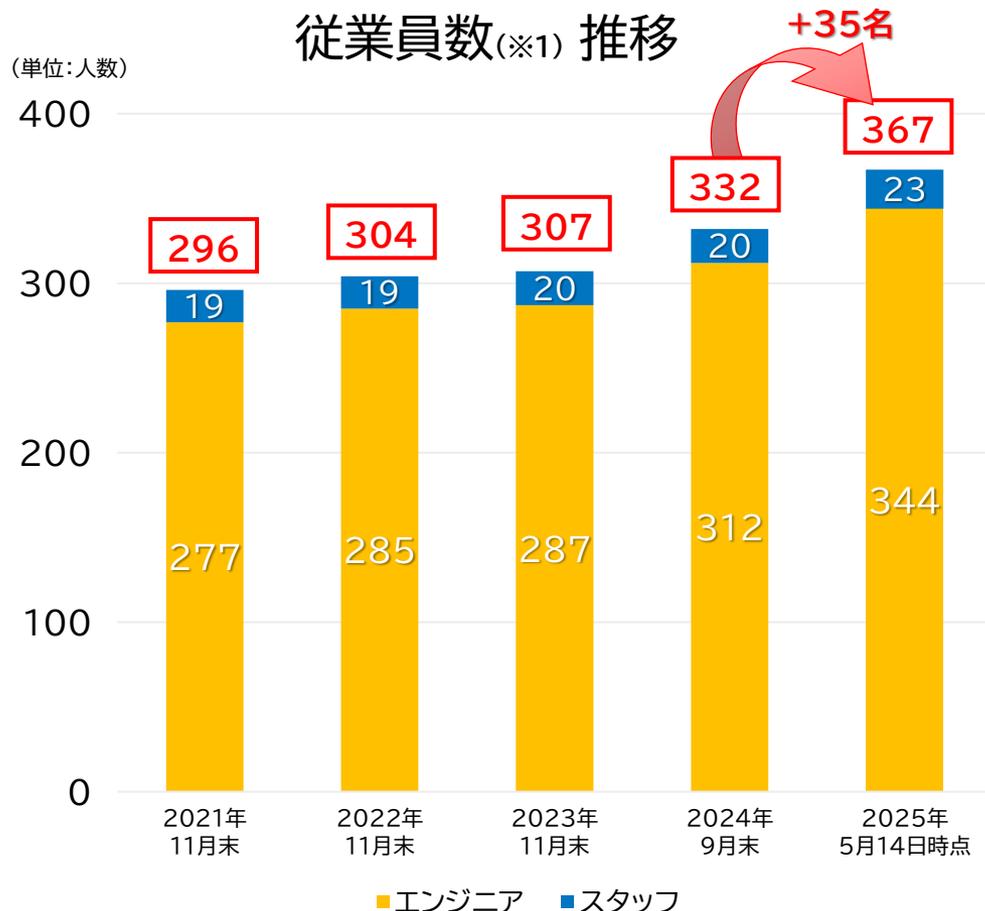
9ヶ月累計業績は、東芝グループから独立した2018年度以降で過去最高の収益を達成しています。PCやスマートフォン向けの需要が一時的に軟調に推移しているものの、AIの急速な普及が更なる成長の原動力となり順調に推移する見通しです。全体的なフラッシュメモリの需要回復に伴い、当社グループへの引き合いの増加が期待されます。

その他

主要取引先3グループ以外の顧客開拓が進み、新規取引を開始する件数が増加しています。旺盛なAI需要やDX化などの事業環境は今後も順調に推移する見通しであり、当社グループへの引合いの増加が期待されます。

今期目標(377名)達成に向け推進中

子会社間の連携強化によりエンジニアリソースの確保に努める



※1 ティアンドエスグループ全体

※2 BP…ビジネスパートナー 業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

損益計算書(FY2025/2Q)

損益計算書(FY2025/2Q)

単位:千円	FY2024/2Q (単体・非連結)	FY2025/2Q (連結)	増減額	増減率
売上高	1,770,648	 2,016,636	245,987	13.9%
売上原価	1,246,247	1,414,875	168,628	13.5%
売上総利益	524,401	 601,760	77,359	14.8%
販売費及び一般管理費	210,255	231,893	21,638	10.3%
営業利益	314,145	 369,866	55,720	17.7%
(営業利益率)	(17.7%)	(18.3%)		
経常利益	314,456	 371,357	56,901	18.1%
(経常利益率)	(17.8%)	(18.4%)		
四半期純利益	218,625	 242,820	24,194	11.1%
(四半期純利益率)	(12.3%)	(12.0%)		

※ 2024年9月期 第3四半期より連結決算に移行しております。

貸借対照表(FY2025/2Q)

単位:千円	FY2024/9 (連結)	FY2025/2Q (連結)	増減
流動資産	2,774,116	2,948,587	174,471
固定資産	146,982	274,892	127,910
資産合計	2,921,098	3,223,480	302,381
流動負債	424,302	539,441	115,139
固定負債	60,985	64,806	3,821
負債合計	485,287	604,248	118,961
純資産合計	2,435,811	2,619,231	183,419
負債純資産合計	2,921,098	3,223,480	302,381

トピックス

トピック①：株式会社カイとの業務提携

当社は、AIソリューションビジネスの拡大を目指し
株式会社カイと業務提携契約を締結しました。

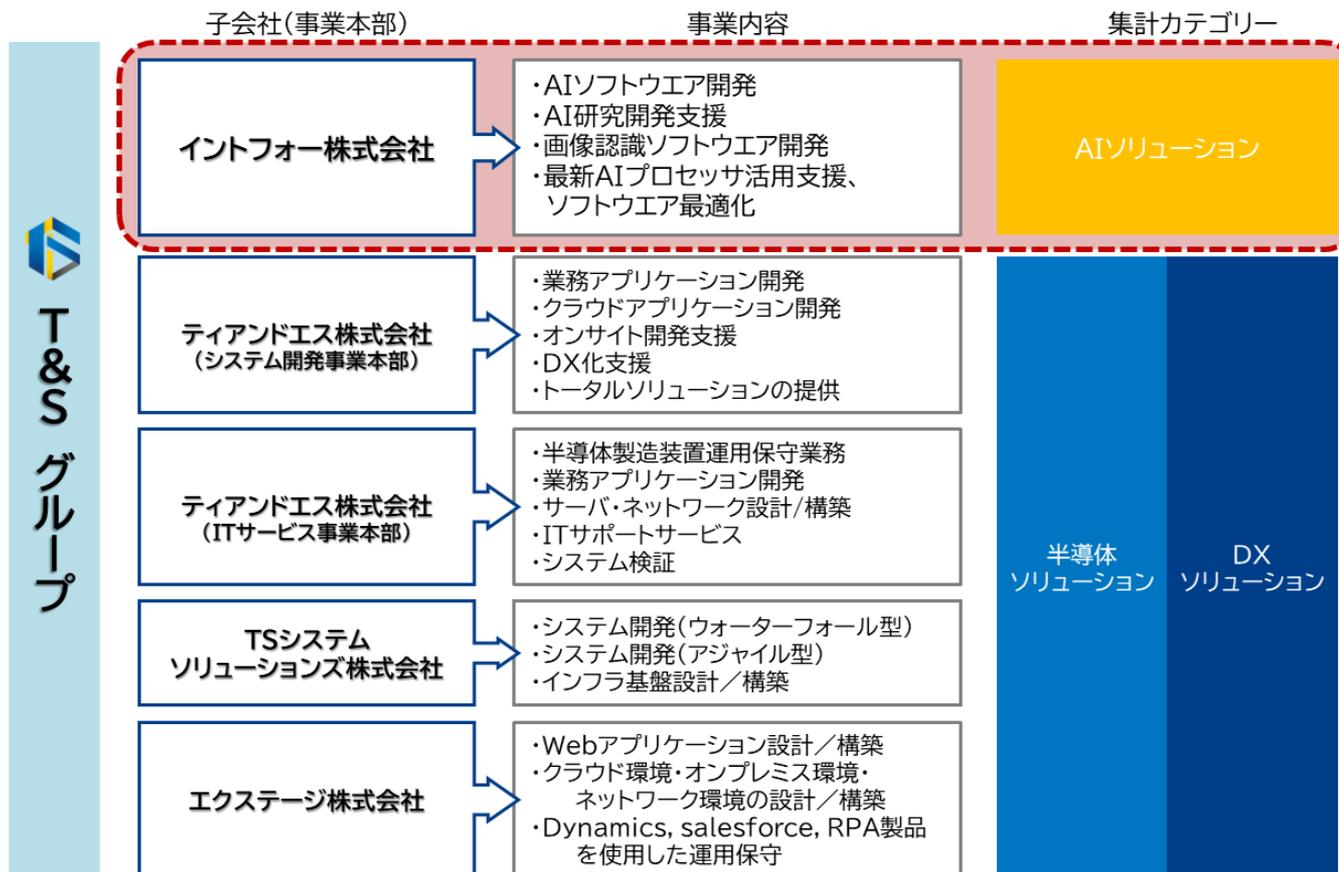


詳細は、2月17日付のプレスリリース「株式会社カイとの業務提携によるAIソリューションビジネスの拡大」をご覧ください。

<https://pdf.irpocket.com/C4055/usA8/J8nu/Pk5j.pdf>

トピック②： インフォ株式会社が始業をスタート

インフォ株式会社 は、AI事業を承継し、 2025年4月1日 より本格的に事業を開始しました。



インフォ株式会社はAIソフトウェア開発関連事業を推進し
当社グループの躍進的な成長に貢献して参ります。

子会社各社による取引先の開拓が順調に進み 新たなお客様との取引を開始しています。

(50音順)

■ エイチ・シー・ネットワークス株式会社

TSシステムソリューションズ株式会社は、エイチ・シー・ネットワークス株式会社(旧日立グループ 本社:東京都、代表取締役社長 田中 宗氏)をお客様とし、大手金融サービス企業様向けに、ネットワークエンジニアリングサービスの提供を開始いたしました。

■ エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

ティアンドエス株式会社は、エクステージ株式会社とのコラボレーションによりエヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社(NTTコムウェア、本社:東京都、代表取締役社長 黒岩真人氏)との間で、情報システムのセキュリティ対策に関するITサービスの提供を開始いたしました。

■ 株式会社ラック

TSシステムソリューションズ株式会社は、株式会社ラック(本社:東京都、代表取締役社長 村山 敏一氏)をお客様とし、大手不動産企業様向けに、ネットワークエンジニアリングサービスの提供を開始いたしました。

取引開始のお知らせは、弊社ホームページのニュースをご覧ください。

<https://www.tecsvc.co.jp/news/>

業績予想進捗率

2025年9月期 2Q現在

(テーマ) 何かが始まる

単位:百万円	2024年9月期 通期(連結・実績)	2025年9月期 通期(連結・予想)	2025年9月期 第2四半期(連結・実績)	進捗率(%)
売上高	2,980	4,000	2,016	50.4%
営業利益	519	750	369	49.3%
経常利益	520	750	371	49.5%
純利益	321	492	242	49.3%

T&Sグループ
全体

子会社各社の営業努力により取引先の増加やエンジニアリソースの拡充が進み、当社グループ全体の業績は順調に推移する見通しです。分社化による各社の特徴を活かし、各社事業の拡大を推進します。当社グループの事業に関して、現時点で米国政権が発表した相互関税措置による直接的な影響はありません。

T&S システム開発
事業本部

半導体メーカーをはじめとする主要取引先からの継続案件及び新規案件の引合いは引き続き好調を維持し、業績は堅調に推移する見通しです。システム開発からシステム運用保守業務へ移行する割合が高く、長期にわたる受注体制は今後も維持継続が期待できます。主要取引先からの大規模開発案件を受注する見通しであり、業績への寄与を見込んでいます。

T&S ITサービス
事業本部

主要取引先からの引合いは引き続き増加傾向であり、業績は堅調に推移する見通しです。当社の主要取引先である半導体メーカーでは、国内での安定供給体制の整備を目的に、最先端の半導体を開発・製造するための施設の増設、生産拠点の拡張が予定されており、半導体工場向けのITサービスは安定的に稼働する見込みです。年間10%増の採用計画に従い新卒採用、中途採用を進め、人材の適正配置により売上、事業拡大を見込みます。

イントフォー

引き続き生成AIサービスやエッジAIソリューションの引合いは好調で、下期も既存顧客・新規顧客ともに案件の受注拡大の見通しです。4月から新会社として経営体制を強化し、外部企業とのビジネス連携を進めながら、成長加速を狙います。

TSシステム
ソリューションズ

既存顧客との取引が増加し、顧客エンゲージメントが強化されています。また、新規顧客の開拓も順調に進んでおり、業績は堅調に推移する見通しです。DXを中心にさらなる成長を目指します。

エクステージ

2025年1月にT&Sグループ傘下となり、第2四半期より連結対象子会社となりました。半導体関連のソフトウェア開発分野でのグループ内連携強化やコラボレーションによる新規取引先の開拓を推進し業績への貢献を目指します。

株主還元

配当性向は10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2025年9月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり8円を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	株主資本配当率 (DOE)
2024年9月期	8円00銭 内訳：普通配当 7円00銭 記念配当 1円00銭	18.9% (10ヶ月変則決算のため)	2.5%
2025年9月期 (予想)	8円00銭	12.3%	2.3%

お問い合わせ先

ティアンドエスグループ株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。